

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372500553		
法人名	社会福祉法人 衣川会		
事業所名	グループホームはごろも(ユニットⅡ)		
所在地	岩手県奥州市衣川区古戸45番地		
自己評価作成日	平成24年11月16日	評価結果市町村受理日	平成25年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon:true&JigyosyoCd=0372500553-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山々に囲まれた自然の中で四季を感じられる。
 ひとつ屋根の下でつながっている衣川診療所(内科、歯科)及び奥州市衣川総合支所があり、また同一法人の特別養護老人ホームも隣接していて、入居者、御家族には手続き・健康面等で連携が取りやすく安心して暮らせる体制になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームと同じエリア内には、同法人が運営する特養、デイサービス等の事業所と、行政の保健、福祉、医療等の施設があり、助言・指導においても連携がよく取られており、恵まれた環境である。
 昨年度より2ユニットになり、職員体制も代わり、利用者本位のケア強化が可能になり、職員の安心にも繋がっている。毎月家族宛に郵送している広報には、担当から最近の利用者の様子が記載されており、家族に好評である。又職員も、地域公民館に出向いて認知症の理解を広げる講習会を開催している。恵まれた環境と、職員の努力で、質の高いケアが提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今まで生活してきた一人ひとりの暮らしの継続を目的とし、スタッフ会議、毎日のミーティングなどで話し合い『ありのままのあなたに寄り添います』という理念を構築している。また、目に付く場所に掲示し、常に意識しながら個々にあった援助に努めている。	サービス開始時に職員全員で作り上げた理念である。年度末には来年の方針を職員で検討をしている。掲示してある理念を利用者が読んでいることもある。自己評価に関しても、全職員で取り組みをした。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	各種行事の際には地域の代表者などに声をかけて参加していただいている。又衣川保育所の園児には散歩コースにいただき交流の機会を設けている。地域の行事や、学校、幼稚園の行事などの際は参加したり見物に出かけている。	介護度の変化に伴い、法人敷地外に出かける機会が減り、エリアの中での行動が多くなってきている。隣の保育園とは盛んに交流をしている。法人の広報(各事業所含む)を地区内200戸に回覧、特養や学校での行事には参加をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での介護者教室に出向き認知症の方々への理解や支援の方法を講演行い、また広報誌に『認知症の豆知識』として記事を掲載し、認知症を理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況報告を行い困っている事や、悩んでいる事についての助言いただいたりしている。ボランティアの活用や地域での交流なども委員の方々からのアドバイスにより開始となっている。	ユニット合同の会議で、平日の午前中に開催している。地域の方や、議題によっては、有識者の参加も頂き、指導・助言を頂いている。夜間の1人体制を心配する声があったが、2ユニットになり2人の夜勤者で対応出来るようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	一つ屋根の下で建物が繋がっており、気軽に相談できる環境にあり助言、協力を得ている。	関係機関が隣接しており、出向いて相談・助言を頂いている。手続きや権利擁護に関しても指導を受けて、適切に処理が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個々に学ぶ機会を設け知識を得るようにしており、目標達成計画の中に身体拘束をしない内容で掲げ毎日の確認などを行い、職員全体で意識付けをしている。また玄関には全く施錠する事なく自由に出入りできるようになっている。	夜間(21:00~6:00)を除き、玄関は開放している。外出傾向の強い利用者が2人あり、見守りと同行で対応している。法人内研修、外部研修で理解を深め、職員間で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会は改めて行っていないが、職員・家族からの虐待防止とともに、入居者間の虐待等の防止に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームはごろも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については改めて学習会は行っていないが現在活用している方が一名おり制度に触れる機会はある。一度成年後見人制度への移行も検討されたがご家族が保留され、日常生活自立支援事業を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は本人・ご家族の悩み、意向を尋ね、入居する事の不安の軽減に努めている。解約の際も十分な説明と話し合う機会を持ち、理解、納得していただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族、地域の方々の行事参加いただき後のアンケートや運営推進会議などで出された入居者の意見、又日常生活での会話を通し(利用者と一緒に入浴時など)本人の要望、不満を聞きだせるよう心がけ改善、反映に努めている。	行事に参加をした後には、参加者、職員にアンケートをとり、結果を次回の(行事等の)参考にしている。家族の不満には速やかに対応して、納得をして頂いている。法人内異動に関しては、1ヶ月前に利用者・家族にお知らせして、混乱をしないようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや定期的な月一度のスタッフ会議において、職員の意見や悩んでいる事を話し合う機会を設けている。	休憩時間の確保について、職員で話し合いを重ね45分を厳守しているが、書類記入等で崩れることもある。新ユニット風呂場の手すり取り付けも、職員の声から改善に繋がった。法人も職員の意見・要望に理解のある対応をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成23年度より人事考課制度導入し、向上心を持ち業務に当たれる環境づくりを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH協会での交換研修や法人内外での研修に参加を促しており、研修受講後の報告の機会を設ける事により職員の育成を図っている。スタッフ会議において分らない点や技術の学習も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会での交換研修や定例会への参加を通じて他施設職員との交流や学ぶ機会があり、サービスの見直しにも繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や実態把握票等を使用した情報収集を通じて要望を聞いたり、入居後も事あるごとに要望を聞くように務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談の際にも情報収集を行ったり、入居後も良好な関係を作って生きるように務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みや相談があった際には、現在の状況をお聞きして、場合によってはヘルパーの利用やデイサービスの利用、他の入居施設等も紹介しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事や選択などの家事、日々の過ごし方を一緒に決めたりするなど、関係性の構築に努めているが、ご本人の体調もあり「お世話」をしている状況になっていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会の機会を多く設けていただくようお願いしたり、外泊をするなど入居者ご本人とご家族の関係性を維持できるような働きかけを行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の神社のお祭りや地域の行事に出かけて行ったり、以前通っていたサービス事業所に時々遊びに行ってくるなど馴染みの関係の維持に努めている。	地元に伝わるお祭りの、神輿、御行列がホームの前に来て、気炎を上げてくれる。知人がデイサービスの帰りにホームに寄っておしゃべりをして行く。 誕生日には希望外出をしている。外食、買い物、床屋等行きつけの場所へ出かける支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で一緒に過ごしていただくなどの配慮を行ったり、一人で過ごすことが多い方には職員が対応するなど、関係性の構築に努めているが、思いが通らないと暴力的になる方もおり試行錯誤している段階である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した方のご家族がボランティアに来てくださるなど、契約終了後も関わりを持っていけるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族に意向を聞いたり、現在ご本人にとって何をすることが大切なのかを考えながらケアプランを作成するなどしている。	自分から伝えることが出来ない利用者が、ホーム全体で3名程おり、入居時の「気づき用紙」から情報を得たり、家族からの聞き取りで、思いの把握をしている。入浴時に会話が弾み、本人の口から情報をキャッチ出来ることもあり、職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集やその後もご本人との関わりを通じて馴染みの暮らし方をお聞きしたりしている。日誌や個人ケースを利用して情報の共有に務めているが、入居者ごと、職員ごとに差があるようにも思われる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々起きたことは日誌や個人ケースに記録し、現在の状態の見極めに利用しており、それを通じて現状の把握に務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議で入居者の現状を確認し合い、ケアプラン作成時にはそれを反映できるように務めている。ご家族にはお話を聞きながら行なっているが、ご本人の意向に関しては反映しきれていない部分もあると思う。(家に帰りたいなど)	情報を収集するために、以前のケアマネや担当者からも意見を聞いている。家族とも頻繁に連絡を取り合い、小さな変化にも対応出来る体制を取っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録や日誌を活用して情報の共有に務めている。ケアプラン更新の際にはスタッフ会議等で話し合いを行い、作成の際の参考としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議で入居者から出た「地域との関わりが途絶えて寂しい」との話から、その方の地域の神社のお祭りに職員と一緒に出向き、午後9時頃まで地域の皆さんと過ごしてくるなど、ケースによっては出来る範囲で柔軟な対応を行なっている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームはごろも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員やボランティア団体を通じて、外出行事や習字教室等の際に支援していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前より利用していたかかりつけ医を利用するなどご家族の希望等には添えていると思われる。しかしかかりつけ医の中には認知症についての認識が少なく感じるところもあり、深い関係を築けていないようにも思う。専門的な医療に関しては適切な医療を受けられていない方もいるように思われるので専門医への紹介等の働きかけが不足していたように思う。	エリア内の衣川診療所が協力医であるが、これまで、かかっていた医師とも連携を切らずに、協力を頂いている。家族対応の通院には、情報提供書類を渡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は配置されていないが、入居者に気になる点があれば併設の特養ホームの看護師より確認・助言を頂ける体制となっており、協力をいただきながら早期の対応に務めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際、病院との情報交換はできていると思うが、その内容がスタッフ全員で共有できていないように感じる。また病院関係者との関係づくりは、定期通院等の相談のみにとどまっているので、今後はよりよい関係を構築していきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状ではターミナルケアを行う設備・人員等が充分であるとはいえず、同法人の特養や他の施設での対応をお願いしている。入居時にご家族には説明を行い、必要に応じて他施設への入所申し込みを行なっていただいている。	利用開始時に、本人や家族に対して、ホームの出来ること、出来ないことを説明して理解を頂き、同意書を取り交わしている。家族に対しては退居後の行き先について、本人・家族にとって、安心の出来る施設(事業所)を紹介して支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習会に参加したり、スタッフ会議の一環として実技講習を実施するなどしているが、実際に事故が起きた際の対応には不安がある職員も多いようである。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練の実施と避難誘導マニュアルを目につきやすい場所に掲示し、常に確認できるようにしている。また避難通路に物を置かないなど経路の確保に努めている。なお、法人全体の組織として地域防災協力隊があり、地域との協力体制を気づいている。	法人全体で7月と、12月3日の2回防火・避難訓練を行った。ホーム独自でも、地震を想定して訓練をしている。14時から1人体制で夜間想定訓練を行った。地域の方15人程が、防災協力隊に参加してくれた。	夜間想定訓練では、利用者の実際の実態を掴むことが難しいことから、暗くなった時間帯で避難訓練を体験し、利用者の行動を把握して試みる必要があると思われる。備蓄に関しても早めの準備等対応を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の考えを尊重しながら、個々にあった声かけを行うように心がけている。また尊厳やプライバシーに配慮した声かけを実践している。	若い職員には、特に言葉かけを指導している。ゆっくり、声のトーンに注意をして、利用者に合わせて対応をしている。利用者には「さん」で呼びかけをしている。下着は毎日、衣類は1日おきに交換して、清潔保持に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「〇〇しませんか？」等の声かけで自分の意思決定ができるように心がけている。しかし意思表示の少ない方に関しては職員の思いが強くなってしまっているように思う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせるように心がけてはいるが、レクや日常の対応で集団での行動になったり、職員の都合が優先になってしまうこともあり、希望に添った支援ができないこともある。(職員の少ない時間帯での外出希望など)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時と場面に合わせた身だしなみ、服装をしていただけるように配慮しているが、ご本人に服を選んで貰う機会は少ないように思う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけを一緒に行う機会は持っていると思う。食事の好みに関しては把握しきれていない面もあり、今後の課題であるように思う。	1ユニットには、調理手伝いの出来る利用者が多くあり配膳や洗い方、拭き方にも参加している。職員も遅番を除き、利用者と同じテーブルで食事をし、食事の済んだのを確認して、服薬管理をしている。行事、季節食を取り入れて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせた食事量や形態で提供しており食べやすくなるよう工夫はしている。水分の摂取に関しては促しているものの、摂取量が確保できている方と少ない方の差が大きくなっている。栄養に関しては栄養士の立てたメニューをアレンジして提供しており、ある程度のバランスはとれているように思う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけはその都度行なっているが、解除の必要な方以外はご本人に任せていることも多く、口腔内の状態を把握しきれていないのが現状である。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームはごろも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用して排泄間隔を把握して声かけを行ったり、オムツ使用の方に関しては、トイレでの排泄を促すように一日一回はトイレに座っていただくようにして、自立支援につなげている。	ほとんどの利用者が、リハビリパンツを使用しているが、声かけで誘導をし、トイレでの排泄を促している。自立度が高い利用者に対しても、見守り、確認をし、体調変化や清潔保持等の点検をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の中にさつまいもなどの繊維の多く含まれる物を使用したり、水分を多く摂取するような声かけを行なっている。また毎日ラジオ体操を行ったりレクへの参加を通じて運動の機会を確保している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間に関しては職員の多い時間帯（午後）に行ない、基本的には一日おきに入浴していただいている。その中で、ご本人の状態を把握しながらタイミングを見て入浴していただいたり、体力的に不安な方は2日おきにさせていただくなどしている。現在、寝る前に入浴したいと話される方はいないが、現状では対応は難しいと思われる。	毎日14時から、4、5人を対象に遅番スタッフが対応し、入浴している。皮膚疾患等のある利用者には、毎日の入浴により改善傾向に向かった。異性介助による拒否は無い。会話が弾み、職員との信頼関係も深まっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼休みの時間をとったり、夜間に混乱や落ち着きがないなどの変化がある場合には、お話を傾聴するなどして安心感を持っていただき、なるべく休んでいただくように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容は個人ケースに綴っていつでも確認できるようにしている。服薬の支援に関しても誤訳や飲み忘れがないように職員同士で確認・声かけを行い、服薬後も体調の変化に留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの状態に合わせた役割分担をし、毎日その方ができることを見極めながら手伝っていただいている。しかしながら、要介護度の軽い特定の方にばかり頼んでしまうこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	腫れている日や気温に合わせてではあるが、なるべく外に散歩に行くなど、希望にそって援助している。また近隣のお祭り等にも、希望があれば少人数での対応であるが出かけていくなどしている。	利用者が法人のエリア内を散歩したり、出かけずにウッドデッキで、日向ぼっこをしたり、近所の方が来訪しておしゃべりしたりしている。法人のバスで季節ごとに花見、紅葉、に出かけている。秋には猊鼻溪の奥まで行き紅葉を楽しんできた。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームはごろも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は職員が管理しているが、外出時などの際には入居者の希望にそって買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方から希望があれば職員も一緒に対応し、ご家族の方などの電話のやり取りを行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物には季節ごとの作品を掲示したり、花を飾るなど快適に過ごしていただけるようにしている。 また認知機能の低下してきている入居者に対しては、居室やトイレの場所がわかりやすいように目印をつけるなどの配慮を行なっている。	ユニットごとに造りは違うが、木材が多く使われている。ホールには畳のスペースがあり、午睡はそこでする利用者がいる。ホールは広くゆったりとして季節の貼り絵、モビール、行事の写真が貼られてある。ゆったりしたソファや椅子が置かれてあり、一人になれる場所も用意されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前でのソファやテーブルで過ごすことが多くなっているが、離れた場所に和室もあり、そこに腰掛けて落ち着いて過ごしたり、ウッドデッキ前で椅子に座って過ごしている方もおり、思い思いに過ごす環境は整っていると思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の家族写真やラジオを持ち込んでいる方もおり、なるべく居心地の良い空間を作るように務めているが、馴染みのものを持ち込んでいことをご家族に伝えても、新しい建物のためか中々持ち込む方は少ないのが現状である。	使い慣れた椅子、テーブル、テレビ、ラジオ、写真・花、(法人の相撲予想の)表彰状など、思い思いに飾られてある。居室の入り口暖簾は個々の好みでかけている。また、掃除が行き届き、清潔である。口腔洗浄は居室の洗面台で行なうことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの入口や近くの柱に『トイレ』と掲示したり、居室前に目印となる物をつけたりして自由に行き来できるように支援しているが、うまくわからないことも多くまだまだ工夫が必要に感じる。		